



# AA日本ニューズレター

〒100-91  
東京都中央郵便局  
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会  
TEL03-590-5377 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F

No.60

## 出版委員会この一年とAA出版物のすすめ

### 常任理事会出版委員会

1996年3月に全国評議会が開催され、出版担当の常任理事から今年度の出版活動の計画が提案されて評議会の全体会議で審議された結果、次のような承認を得た。

#### 1. 出版事業計画

1. 「今日を新たに」一部改訂のうえポケット版で巻末に索引をつけ3,000部発行。

2. 「ビッグブック」「12&12」は年内に在庫が切れるが、現行の版で年度内に再版。

#### . 新刊発行図書の選定と出版

1. 「信じるようになった」「AAの伝統が生まれるまで」を新刊として出版。

2. AA出版物カタログ、AA内で印刷費実費を負担するという事で各地域で部数のニーズ調査の上作成。

3. 現行のハンドブックに「平安の祈り」復活。(その他の詳細については「第1回全国評議会報告書」を参照してください)

これらの承認事項を受け、出版担当常任理事を中心に委員会設置へと動き始めた。だが、担当理事の在籍地が宮城県ということもあり、限られた地域で少ないメンバーで、委員会設置が危ぶまれる状態だったが、担当理事の熱意と強引さに動かされ、福島地区1名、宮城地区2名、岩手地区1名でどうにか出発することができた。

**これまでの活動** このような状況のもと、ともかく作業が始まったその第一が「ミーティング・ハンドブ

ック」の改訂作業である。復活が決定した「平安の祈り」をどのページに入れるのか。「わたしの責任」はどうするのか。割り付けをどうするのか。これらの検討を進めて出版局へ指示。その結果が現在のハンドブックである。

出版委員長をはじめ、委員として名を連ねたメンバーたちは、JSOの出版局スタッフ以外すべて素人である。「ハンドブック」の場合は、私たちにとっても日ごろ使い慣れたものであるから、考えることも検討することも容易にできたものの、これが新刊書の発行となった場合、出版委員にいったい何ができるのか。そこで出版委員会の役割の検討がなされていった。

出版局の作業分担は、評議会報告にもあるように、一応の基準が示されている。内容の改訂が伴わない在庫切れの出版物の再版については、出版委員会で指示できる業務として承認されているが、新刊書、内容改訂をとともう本の再版については、出版局が独自に作業するものと、出版委員会が独自におこなうものと、共同で行うものがある。

「ハンドブック」改訂作業で得た経験だけでは十分とは言えないが、その経験はつぎの仕事となった「今日を新たに」のポケット版発行の作業を進める上では参考になった。

「今日を新たに」の場合は本のサイズ、内容の一部改訂、索引つき、ということがすでに評議会で承認されており、当委員会での検討事項は表紙の色の選定だけだったため、出版局との連絡もスムーズに進んで、その結果現在の表紙の色となった。価格は、出版担当理事、財務担当理事、出版局との間で検討の結果、現行価格に設定された。6月に出版されてから8月までの3カ月間にすでに前年度年間実績を上回る出荷数を記録している。

だが、作業を進めていくなかで、新刊本や再版本の検討だけが委員会の仕事ではないことがだんだんと明らかになってきた。年内に発刊が待たれる「信じるようになった」「AAの伝統ができるまで」の書籍、パ



ンフレットを含めた出版物カラー・カタログを作成したり、出版物の販売促進をすすめたり、既存の出版物の見直し等、時間と多くの労力を必要とすることがたくさんある。

これまでの「ハンドブック」や「今日を新たに」といった、発行までの委員会での作業の場合、担当理事からの指示は作業開始直前が多く、各委員も遠方に散らばっているため、顔合わせも自由にできないまま、電話やファックスのみのやりとりで進め、やることは作品の仕上げのお手伝いという感じであった。だが実はこれからが常任理事会出版委員会の本当の意味での出発なのだろう。ただ、作業が多すぎてシンドイ気がしないでもないが。

### 気づかされたもの

ステップの1から12までの表現のなかに、見直しが必要なものがあるとの指摘を現在受けているが、改訂した場合、現在日本で発行されているAA内外の多くの出版物に影響を与えることになり、対応は難しいところである。多くの人材とその才能の結集が求められることになるだろう。

出版物のカラー・カタログの作成やビッグブック原本の個人の物語りの翻訳分担作業については、われわれの力不足と未経験とが重なり、作業が思いどおりに進んでいないのが現状である。活動報告を書いているつもりが、弁明の羅列のようになってしまったが、じつは発足当初担当理事を含め5名いたメンバーも1名抜け、現在4名で評議会承認事項への対応をしていることをご理解いただきたい。

身勝手な報告が続いたが、ここで朗報をひとつお伝えしたい。この文章を書いている最中に、評議会承認事項として年内発刊を予定していた「信じるようになった」の翻訳が完成したという連絡が出版局から入った。そこで、本のサイズ、表紙の装丁、色、文章の配列、タイトル、サブ・タイトルについて委員会で検討をし、出版局に指示してほしいという要請だった。そこで、本のサイズは「リビング・ソーパー（どうやって飲まないいるか）」と同じA5版とすることについて



では問題なく委員会、出版局双方の意見の一致をみた。縦書きにするか横書きにするか、日本語のタイトルとサブタイトルについては、電話やファックスでのやりとりが何度も繰り返され、ページ数が250ページぐらいになることを考慮して、縦書きにした。また、タイトルは「信じるようになった」、サブ・タイトルは「AAメンバーたちの魂に訪れたさまざまな回復への体験」と決定した。このサブ・タイトルは原書でも見開きのページに記載してあり、翻訳版も同じようにした。

印刷会社に原稿を持ち込んだ後の出版局の仕事はまだ数回の校正作業が残されている。表紙の装丁、印刷費を基盤にした販売価格の理事会への提案などは、われわれ出版委員会の仕事だ。特に価格の設定は出版を待ち受けているわれわれにとっては、最大の関心事である。

### これからの問題点

日本AAの出版物は、日本のオリジナルのものを除けば、その著作権はニューヨークのAAワールドサービス社にある。日本における翻訳、発行の契約はそれぞれの出版物について個々にJSOとワールドサービス社との間で交わされているが、AAのもつ理念とその国際性を考えると、日本における著作権の保護に対応できる法人格の必要性を感じさせられるところである。

またこれまで発行された出版物は、発行元が「AA日本出版局」とあったり「AA文書委員会」とあったりとまちまちであった。今回の「信じるようになった」では、「今日を新たに」と同様に、AA日本出版局と記載することを出版委員会の中で確認したが、次回評議会ではこのあたりのところも検討する必要があるのではないと思われる。法律分野の専門家の助言もほしいところである。

さらには、「AA(アルコールクス・アノニマス)」という言葉ですら、海外小説の翻訳本などに出てきた場合、例えば「アルコール中毒者自主治療協会」といった表現が使われたりと、さまざまな言葉が用いられている。一般の小説等においても、できることならA

Aという用語がそのまま用いられるような方向にもっていく努力をしていけたらと思っている。

#### AA出版物のすすめ

このニューズレターが発行されるころには「AA出版物のススメ」というチラシが各メンバーのお手元に届いていることと思う。出版委員会の最大の願いは、すでに出版されている本はもちろん、今後出版されるものも含めて、ともかく皆様に読んでいただきたいことである。仲間とのミーティング、イベントでのフェロシップは回復への大切なステップである。だが、AAの本に書かれた数多くの世界中の仲間たちの回復への軌跡、その分かち合いは、自分たちのミーティング場を超え、日本を超えた、世界の仲間たちとの貴重なミーティングだ。

地域によっては、本を読むなという提案があるという。この提案にはもっと説明が思う。知識をつけて頭だけで理解を深めても酒はやめられない。知識をつけるために本を読むのではなく、世界中の仲間たちと経験を分かち合うために、ミーティングの時間の



合間に、またひとりぼっちでいるときに、AAの本を読もうと。AAの本は、何百万人ものアルコールクたちの回復の経験の宝庫であると。

東北の片田舎に細々と誕生したこの小さな小さな常任理事会出版委員会ではあるが、評議会をはじめ多くの仲間たちに支えられてここまでやってこれた。

より多くの仲間たちの参加と支援、協力をおねがいして、よりよいものにしていきたいと、一同、張り切っているところである。

## サービスハンドブック小委員会中間報告

### サービスマニュアルについて

AAの「三つの遺産」のひとつ「サービス」に関し、J S Oから出版されている青い表紙の「サービス・マニュアル」をメンバーなら一度は手にとってご覧になったことがあると思います。しかし、メンバーから聞こえてくる多くの声は、「買ったが読んでいない」「読んだがさっぱり理解できない」「読めば読むほど日本の実情と合わないので混乱する」「見ただけで拒否反応が起こる」等々、数え上げたらキリがありません。

今年3月、全国評議会の分科会で、「日本のサービスマニュアルをつくったらどうか」という意見が出され、全体会議でそれが承認されたことは既に各地域の評議員の皆さんからの報告でご存じのことと思います。その決議を踏まえ、全国7地域の評議員氏からの推薦を受けた、顔も分らない15人のメンバーで、5月末、「日本/サービスハンドブック小委員会」が常任理事会のもとに生まれ、AAのよき理解者でおられる日本社会事業大学院の橋本女史をノン・アルコールクのアドバイザーとして発足することになりました。

この「小委員会」が最初に始めた作業は、各地域から推薦された委員から当地の地区・地域のサービスの現状の資料を送ってもらうことからでした。その送られて来た各地の資料を一括して私から各委員にフィー

ドバックし、その資料をもとに試案作成者を募ったところ、数名の委員に名乗りを上げていただきました。

試案作成に関し私からお願いしたことは、

AAの「三つの遺産」の精神を大切に。

過去のG S M・評議会での決定事項と何回か確認されている「サービス・マニュアルに沿っていく」という、すなわち、サービスマニュアルとの整合性を勘案する。

地区、地域の自律性は尊重する。

全国共通の認識のもてるものという簡単な注文でした。

そして試案作成者から送られて来た試案数案を再度全委員にフィードバックし、その中から一人の委員の案をタタキ台にすることになりました。

何回か書簡を交換し、案も煮詰まってきた8月、委員が一堂に会しない隔靴搔痒の感があったお盆過ぎ、私から「関西ラウンドアップでお会いしませんか？」のお誘いをしたところ、8名の委員から快諾を得、参加できない委員からも手紙、F A Xで案に対する見解が示され、9月27日びわ湖畔の国民休暇村に出向くことになりました。

28日(土)委員がそろった午後1時より、夕食、ラッフルタイムを挟んで実質8時間熱心な論議がなさ

れ、多くの問題点が合意し、合意されなかった問題は12月の常任理事会全体会議、来年2月の第2回評議会に委ねることになりました。

昨年3月、埼玉県の大宮で開催された「全国代議員集会」で「GSM（ゼネラルサービスミーティング）から全国評議会へ」の決議がなされ、その結果を踏まえての今回の全国規模の小委員会設置は、今後の日本の全体サービスのテストケースとして意義があるものと思っています。

今後の手順としましては

11月末をメドに最終案を作成し

12月15日の常任理事会全体会議で検討を加え来年2月9～11日の全国評議会承認されれば評議会承認出版物として印刷し仲間の手に速やかに届けるということになります。

どのようなものが皆様の前に出てくるか、楽しみにしててください。

以上、中間報告とします。

常任理事会サービスブック小委員会担当常任理事  
杉之尾

## 第14回ワールドサービスミーティング開催のお知らせ

日時 1996年10月27日～31日

会場 クラウン・プラザ・マンハッタン・ニューヨーク

テーマ 〈愛と感謝を行動に〉



2年ごとに開催されるワールドサービスミーティングの開催時期がやってきました。

世界26カ国から43名のWSM評議員の参加をもって開催される今回のWSMは、前回と参加者数は変わりませんが、ロシアから初めてのWSM評議員を迎えます。

我が国からはA類常任理事でもある久里浜病院のソーシャルワーカー、岡崎直人氏と、中部北陸地域の評議員経験者の湯浅さんがWSM評議員として参加しますが、岡崎氏は「ノン・アルコールの友人にAAの常任理事を引き受けていただくためには、AA側はどうやってひきつける魅力を深めたらよいのだろうか」というテーマで、初日のプログラムでプレゼンテーションを行います。また、次回の開催国決定特別委員会の委員にもなっています。湯浅氏は日本のAAについて報告し、ワークショップの司会の役割も担っており、お二人の活躍が期待されています。

今回も前回のテーマ「基本に返ろう」に引き続き、AAの基本的な部分メッセージ、機関紙、ニューズレター、ノン・アルコールの役割、新しく来た人にサービスにかかわってもらうには、等々について、世界各国の経験が分かち合われ、さらにWSMのあとは、アメリカ/カナダの常任理事会にも参加を招待されています。

詳しい報告は次回のニューズレターでお知らせしますが、各地域でも報告会を開催します。お楽しみに待っていてください。

### 近刊案内

#### 「信じるようになった」

AAメンバーたちの魂に訪れたさまざまな回復への体験

おまたせしました！今年度の第1回評議会決定された新刊発行計画の「信じるようになった」がいよいよ発行されます。本書は、それぞれのAAメンバーにとって“霊的目覚め”が回復に何をもたらしたのか、“自分で理解している神”とは何なのか。その霊的な旅路の経験が76名の世界の仲間によって分かち合われています。AAは霊的なプログラムであっても、宗教的な神学的な教義にはしばられていません。AAにはじつにさまざまな考えの人たちがいます（本書まえがきより）。その実にさまざま考えにぜひ触れてみてください。心にしみいる本です。

11月15日発刊予定